

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-112450

⑬ Int.Cl.⁹
A 23 G 3/30識別記号 庁内整理番号
8114-4B

⑭ 公開 平成3年(1991)5月14日

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全2頁)

⑮ 発明の名称 眠気防止用チューインガム

⑯ 特 願 平1-247679

⑰ 出 願 平1(1989)9月24日

⑱ 発 明 者 前 田 昌 彦 京都府八幡市男山美桜1番15号

⑲ 出 願 人 前 田 昌 彦 京都府八幡市男山美桜1番15号

明 細 書

1. 発明の名称 眠気防止用チューインガム

2. 特許請求の範囲

1. くえん酸等の酸っぱ味の有る物質を大量に主として内容成分に入れ、強烈な酸味を持った眠気防止用チューインガム。

2. カフェインを主たる物質として混入した眠気防止用チューインガム。

3. 請求項1. 記載の内容と請求項2. 記載の内容とを併せ持った眠気防止用チューインガム。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、食品のチューインガムに関するものであり、その使用目的は眠気を防止する事にあるチューインガムである。

従来、車の運転中等に眠気を起こした場合、之を防止するには、例えば、コーヒーやある種のカフェイン入りのドリンク剤等の覚醒作用のある飲料を飲んだり、ラジオを大きくかけたり、顔や首筋等をマッサージしたり、又チューインガムを

噛んだりする方法が採られて来た。

これらは、いずれも脳に刺激を与える目的で行われる訳であるが、それを効果的に行うのは甚だ難しい。

一方、従来よりあるチューインガムは、之はたとくまでもそれを噛む事による快適さを目的とするものであった。

本発明は、この眠気防止対策の一つとして、チューインガムを噛んで眠気を防止する場合に、之をより効果的にその働きをより一層大ならしめる為のものである。

即ち、チューインガムの中に、脳を刺激したり興奮させたりする物質、例えば、くえん酸等の酸味のある物質を大量に入れて強烈な酸味を醸し出したり、カフェイン等をその主成分として入れたりして、その相乗効果醸し出すチューインガムを作る事にある。

本来、強烈な酸味やカフェイン等は、眠気防止には大変な効果が有る事は周知の通りである。又一方、チューインガムを噛む事も眠気防止の効果

的な方法の一つとして従来より知られている事も前述の通りである。

それ故、本発明は、この二つの効果的な方法を組み合わせる事により、その相乗効果によってその効果は一層高まることになる訳である。

更に又、上記の如くチューイングガムに大量のくえん酸等を入れて強烈な酸味を醸し出す事に加えてカフェインを添加混入する事はよりその効果を高める事にもなる。

尚、従来もチューイングガムの中には、快適な味付の為に、少々のかえん酸等が添加されている場合があったり、カフェインが含まれているコーヒーの成分が混入されているものも有るが、これらは全て美味しさを目的とするものであって、本発明が目的とする強烈な酸味で脳に刺激を与えたり、又カフェインで脳に興奮を与えたりする事を目的とするものとは、根本的に質的にも全く違うものである。

又、本発明品の目的とするチューイングガムの中に酸味物質を入れる場合は、くえん酸のみならず、

梅干しエキス等強烈な酸っぱさを醸し出すものであれば、いずれにてもその目的は達えられる。

更に又、本発明品の場合、以上の様なくえん酸やカフェイン等をチューイングガムの中に混入する以外に、適当な香料や、補助的に味付け用の物質を添加する事は自由である。

本発明は以上の如くであるので、眠気を生じた場合は、本発明のチューイングガムを噛む事によって、強烈な酸味による脳への刺激と共に咀嚼筋の働きによる脳への刺激の相乗作用によって、より効果的に眠気を防止する事が出来、延いては、車の安全運転や勉強の効果増大等につながる。

尚又、くえん酸等は健康保持の上からもプラスであるとされているので、本発明の一つであるくえん酸入りチューイングガムを噛んで目覚ましをする事は身体の健康上から見てもベターである。

特許出願人 前 田 昌 彦